

課題2 負傷者等の救出・救護

■現状（意見）

- ・防災資機材、救助用品の保管場所を知らない。
- ・近所で救出救護道具を持っている家を知らない。
- ・救出、救護の方法を知らない。
- ・防災に関する講話を聴くことはあっても、実際に資機材に触る機会が少なく、災害時に役に立てるか不安。
- ・高齢者が多いので、助ける側の人材が不足している。
- ・救出、救護を担える、若い人材の育成不足。

■地区としての今後の取り組みの方向性

- ①救出救護に必要な基本的知識を多くの住民が身につける。
- ②救出救護用の道具を準備しておく。
- ③地域の救護施設や医師等の所在地を把握する。

■各団体の今後の取り組みの方向性

【町会】

- ・普通救命講習や防災士の資格を積極的に取得する。また、町会などで資金の助成をする。
- ・救助道具（バール、スコップなど）を町会で用意し、町会倉庫に入れる。
- ・町会内の医療従事者を把握しておく。
- ・管内の大学と町会で連携し、若い人の力を獲られるよう働きかける。

その他の意見

- ・被害想定を具現化した訓練を実施する。
- ・実際の避難ルートを歩いたり、防災倉庫の資機材を用いるなどして、より実践に近い訓練を実施する。
- ・町会で救助を呼ぶためのホイッスルを配布する。
- ・災害時の連絡体制を決めておく。
 - 事前に番地や集合住宅ごとなど、ご近所グループまたは小エリアブロックを作り、その中で助け合う。
 - あわせて、町会の対策本部を作り、各グループ・ブロックから本部へ報告・連絡・相談できる体制を作る。
 - 救助、救援が必要な家の情報を集める場所を決めておく。（町会会館、避難所など）
- ・地域の救護施設や医師等の所在地を把握する
 - 災害時緊急名簿の作成をし、可能なら職業も掲載する。
 - 病院との連携を強化し、救助体制を確認しておく。
 - 医療救護所の確認（管内周辺は桜小、桜丘中）

【学校】

- ・避難所運営委員会や学校協議会主催の防災訓練に児童、保護者が積極的に参加してもらえるように広報活動をする。
- ・TSA（弦巻スチューデントエイド）のメンバーで、防災イベントや防災マップを作成する。

【集合住宅】

- 消防署や防災の知識を持つ人を呼び、集合住宅ごとに防災訓練を行う。
- 救助連絡の伝達方法を決めておく。
→番地や集合住宅ごとにグループ分けをしておく。

【その他】

(災害前)

- 救急用品を普段から用意しておく。
→自宅内で救助用品を分散して置いておく。
→手当用の持ち出し物品は中身を書いて掲示しておく。
→非常持ち出し袋に止血パッド、ガラス対応の手袋・靴を追加し、玄関に置く。

■その時あなたは、どうしますか？

- 自分の救護。
- 救命救急講習をみんなで受ける。
- AEDの講習会で普通救命士になれるということを町会以外にも広める。
- AEDの場所を確認する。(商店街、コンビニなど)
- 医療マップの作成→商店街では配布中。
- 町会と町内の病院で連携とれるようにしておく。(協定のお願い)
- 負傷者が出たという想定で訓練をする。医者などがいないか声かけ。

その他の意見

- 救助を要する人の名簿を民生委員さんと町会とで共有できるように。
- 家族の中で連絡方法を決めておく。→回覧で啓発。
- 各家庭で最低限の備えをしておく→回覧で啓発。
- 学校でも防災教育をして地域になれるように。
- 災害時の対応(負傷者の救出)を普段から話し合いする。(商店街)

※医療救護所は、重傷者を抽出し適切な後方医療機関への搬送を主たる目的としていることを周知する必要がある。

負傷者を医療救護所へ搬送する必要があるか判断する。